

シャキシャキと ほろ苦い落 春の味

5月5日(土)に「里山案内人講座・初級編」として、木子集落の鍋淵と兜淵を探検しました。また上世屋の畦付けも行いました。午後からは、樺丹に集合して総会を開催しました。今回は、鍋淵探検の参加者から1名、畦付け参加者から2名の感想をいただきました。

木子の淵を探検して

京都府立大学 栗山 佳織

週間天気予報ではぐずつきそうだった5月5日(土)だったが、当日は青空に恵まれた。気持ちの良い五月晴れの中、河嶋さんの案内で、木子集落の山中にある、伝説を残す鍋淵、兜淵に行ってきた。

出発前に、木子は平家村同様、平家伝説が多く残るところというお話を聞いた。木子の学校跡から見える潮霧峠もその昔、木子から塩を買いに行った人が塩を背負って帰ってくる時に平家の残党に背中塩を切られたので塩切り峠と言われるようになり、現在の潮霧峠となったそうだ。



目的の淵までは、木々の間を歩くことになったが、植物園や図鑑でしか見たことのない植物との出会いは楽しく、また、落葉樹が多く明るかったので、すがすがしい気分で行くことができた。道沿いに現れる植物たちは深町先生によって次々に解説され、一度解説された植物にもう一度出会うと、いきなり復習問題が出されたので、ときどきしながらも山道を飽きること



鍋淵で記念撮影

なく楽しく進むことができた。

谷を下って沢沿いへおり、少し進んだところに目的地の一つ、鍋淵があった。この淵は、巨大な一枚岩が沢の水によって長い年月をかけて穴を掘られ、巨大なすりばち状になったものだそうだ。昔、ここには神様と仏様が一緒に祀られていたが、良くないことがおこり、これは神様と仏様を一緒にしているからだということで、神様と仏様を沢に流したところ、金の蟻が仏様を沢から引き上げてきたので、鍋淵には仏様を祀るようになったという伝説も聞いた。

鍋淵の次は兜淵に行った。ここは平家の残党が源氏の追っ手を恐れて鎧を淵に沈め隠したという伝説の残る淵で、崖に挟まれた狭い深い淵には何か隠されていてもおかしくないなと感じさせられた。

淵を回ったあと、春のブナ林も歩く予定だったが時間が足りず行くことができなかった。それは残念だったが、ここにしかない歴史と自然の両方を楽しむことができ、とても有意義な時間を過ごせた。また参加できる機会があれば、そのときはブナ林にも是非行ってみたいと思う。

「あぜつけ」体験

京都府立大学 岡田 加奈子

今回私は、丹後の上世屋地区で田植えの準備をしました。現在この地区は過疎化で人手不足となり、棚田を営んでいくことが難しくなっているそうです。

そこで私たちは、田植えの準備の手伝いとして「あぜつけ」をしました。「あぜつけ」とは、田んぼの淵を泥でコンクリートのように固めていく作業です。最初にその作業を見本として見せていただいた時には、泥をすくって塗るだけで簡単そうだな、と感じていました。しかし、やはり見るのとやるのでは大違い。実際にやってみると、草は思うように刈れない、足は泥に埋もれて自由に動かない、2層になっていると言われた田んぼの泥もどこから下の層だかよくわからない、農具もうまく使えないといった状態で、簡単そうだと思った自分に恥ずかしくなるほどでした。

そんな様子を見て、棚田のおばあちゃんは「見てられん！」と、大きく曲がった腰でずぼずぼと田んぼに入り、ずっしり重い泥をぺたぺたくっつけ、あっという間に2メートルほど完成させてしまいました。それはまさにプロの技でした。長年の積み重ねを見せられた瞬間でした。それから私たちもコツをつかんでいき、少しずつあぜつけに慣れていきましたが、泥は重く、腰も痛く、太陽も照ってかなりの重労働でした。

田んぼの作業と聞くと、それまで私は単純に田植え



しか思いつきませんでした。しかし、お米ができるまでにはあぜつけも含め、たくさんの準備や苦労、努力が行われていることを実感しました。私たちが生活の中で出会うお米といえば、お茶碗の中であとは食べるだけのお米がほとんどです。私は、この体験を通してそのお米にどんな苦労が詰まっているかを考えられるようになり、とてもよい経験だったと感じています。

畦付けを体験して

京都府立大学 米津 澄子

5月4~6日にかけて、京都府北部の丹後上世屋地区を見学し様々な体験をすることが出来ました。5日は井之本さんという方にご指導をして頂きながら、田んぼの畦付けをさせていただきました。

田んぼの畦とは、田と田の間に土を盛り上げて境としたものを指しますが、その部分を全て手作業で行うというものでした。

まず、鍬で畦のアタマの部分の草を刈り、次に畦のハラ部分の草を刈ります。ここでしっかり草の根まで刈っておかないと、畦に穴が開いてしまうので、注意しなければならないとのことでした。

草刈りが済むと、田んぼ内の比較的、水と混ざっていない泥を畦のアタマとハラにかぶせるように乗せませす。その泥を、鍬を使って滑らかに整えて完成です。

初めて上世屋の棚田を見たとき、あまりの美しさに驚きました。しかし、この風景を維持するためには、大変な労力が必要なのだということが、畦付けだけでも十分理解することが出来ました。丹後の良さへの憧れだけでは、この美しさを維持することは難しいのだと思います。

私たちが今まず出来ることは、今回のように普段の生活とは違う動植物や丹後特有のライフスタイルに直接触れ、実感し、理解を深め、さらにそこから一歩踏み込んで、何が出来るかを考えることだと思います。

♪♪♪ お知らせ ♪♪♪

6月16日（土）に上世屋の草刈りを行います。

昨年と同様に、上世屋集落と田んぼ周辺の草刈りを行います！ 美しいふるさとを創る会の方々と立命館の学生たちと共催になります。暑い季節ですが、すばらしい景観維持のために一緒に汗をかきながらがんばりましょう☆ 小雨決行です。皆さんの参加、お待ちしております。

- 日時：平成19年6月16日（土）13:00～16:00
- 企画担当：小川（雅）、井之本
- 集合場所：樺丹（上世屋バス停のそば）
- 準備するもの：草刈機、カマなど
- 服装：草刈りのできる服装でおこしてください
- 問合せ先：事務局（電話 0772-25-0015、e-mail : kura@iio-jozo.co.jp）

8月11日（土）に「世屋川の源流を歩こう」を行います。

上世屋集落の上流にある世屋川源流や湧き水を訪ねます。豊富で多様な水資源に恵まれた世屋の里の自然と文化に触れながら、世屋の水環境や水利用の特徴を学びます。

- 日時：平成19年8月11日（土） 9:00～12:00
- 企画担当：梅本、三好、深町
- 集合場所：樺丹（上世屋バス停のそば）
- 持ち物：帽子、着替えなど
- 服装：川に入れ、山も歩ける服装でおこしてください
- 問合せ先・申込先：事務局（電話 0772-25-0015、e-mail : kura@iio-jozo.co.jp）まで。参加者には、後ほど詳細をお知らせしますので、必ず事前（8月3日まで）にお申し込みをお願いします。

訃報：2006年11月4日の「里山の暮らし～薪づくり」の講師をして下さった小川竹男さんが、お亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。



総会（2007.5.5）および2007年度の活動に関するご報告

1. 開会挨拶：飯尾理事長
2. 議長選出：前野氏が議長に選出
3. 2006年度活動報告：深町

資料に基づいて2006年度の活動内容について報告した。イベント活動の報告の他、助成金を使った活動の報告、きょうとNPOセンターの研修受け入れについての報告がされた。

4. 2006年度会計報告：飯尾

平成18年度収支決算書に沿って内訳の報告がなされた。

5. 2007年度活動案：深町

資料に基づいて2007年度の活動予定案について説明された。

新たな取り組みに関して、常駐スタッフの必要性について検討した。適任者の一例として、インターンシップの可能性について話し合われた。

年間行事に関して、担当者を決め、その担当者を中心にして適宜日程などの予定を組み込むという提案があり、了承された。続いて、拠点整備および情報発信に関して説明があった。

現在までに決まっている月ごとのイベントの計画については以下の通り。

5月：ブナ林ハイキング（河嶋）

6月：上世屋集落での草刈り（小川雅、井之本）

8月：世屋川の源流を歩こう（梅本、三好、深町）

11月：しいたけづくり（前野、橋本、小林）

7月～10月まで4ヶ月間、毎週第1、第3日曜に朝市を開催予定（橋本）

6. 2007年度予算案：深町

資料に基づいて2007年度の予算案について説明に基づき議論を行ない、2007年度予算案を決定した。

7. その他

（樺丹に関して）

国定公園に指定後は、樺丹を総合案内所やビジターセンター的なものとして利用し、トイレに関しても一般にも利用してもらいたいので、汲み取り式から水洗に変えたいとの要望があった。

（定住希望者の受け入れに関して）

団塊の世代の田舎への定住を考える人の増加。

（樺丹の拠点整備に関して）

拠点としての整備を進めるため、土間の壁の改修（展示スペース作りのため）、パソコン周辺の整備、トイレの汲み取り（水中ポンプを買うならポンプ代が必要）を早い段階で行なうことで合意した。